

ハンディジェットヒーター【ハンディ君】 (50Hz、60Hz 共用) 取扱説明書



ストーブヒーター暖房器具レンタル専門店

笑顔のボタンタッチ
上州物産株式会社

〒379-2166

群馬県前橋市野中町369-2

TEL : 027-289-6080

FAX : 027-289-6166

ストーブヒーター暖房器具レンタル専門店
ホームページへアクセスする場合はこちらの
QRコードを読み込んでください。



安全のための十か条

▲ 安全にご使用いただくために次のことを必ずお守りください。



警告 この機械は「業務用」ヒータです。家庭用として使わないでください。火力が強いため、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

1. 換気必要 密閉された空間での使用厳禁



使用中は必ず換気してください。空気取入口や排気口を必ず設けてください。酸素が不足すると一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。

必ず換気！

2. 可燃性ガス及び引火性液体厳禁



シンナー、ガソリン、LPG などがあるところでは、ヒータを絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因となります。

3. ガソリン、変質灯油、不純灯油使用厳禁



使ってはいけない灯油
 ・ 昨シーズンより持ち越したもの
 ・ 日光が当たり温度の高い場所で保管したもの
 ・ ガソリン、シンナー、機械油などが混入したもの
 ・ 水やゴミが混入したもの
 異常燃焼や火災の原因となります。

4. 改造厳禁



改造は絶対にしないでください。火災・やけど・一酸化炭素中毒など、重大事故の原因となります。

5. 水のかかる場所、湿気の多いところでの使用禁止



雨水、雪のかかる場所や湿気の多いところでは使用しないでください。濡れた手で操作しないでください。故障や感電の原因になります。



6. 周囲の可燃物に注意



ヒータと周囲の可燃物との距離は、取扱説明書に記載の距離を確保してください。床面が、こげたり変形しないように注意してください。火災の原因となります。

7. 周囲温度に注意 (-20℃から 40℃の範囲で使用してください)



40℃を超える温度で使用すると、ヒータが過熱され火災の原因となります。

8. 通路での使用禁止、子供のいる場所での使用に注意



階段、避難口及び部屋の出入口などでは使用しないでください。やけどや怪我の原因となります。子供のいる場所では、ガードを設置してください。事故防止のため安全管理者をおいてください。

9. やけどに注意



燃焼中や消火直後はルーバ、放熱パネル、外筒などが高温となりますので手をふれないでください。やけどの恐れがあります。



10. 動物飼育施設での使用に注意



次の内容が想定されます。
 ・ 敷きワラ等の可燃物による火災。
 ・ 換気不十分による不完全燃焼で家畜の死亡。
 ・ 安全装置の作動による自動消火で家畜の凍死。
 ・ 家畜のやけどや脱水症状

ここには取扱説明書の警告事項の中から特に重要なものを、厳選して掲載してあります。ヒータをご使用いただく前に、必ず取扱説明書をお読みください。

目次

メーカー取扱説明書

返却時の梱包手順 31

梱包時 PP バンドの使用方法 34

最初に周波数（50Hz/60Hz）をご確認ください！！

本商品には、50Hz 区域用、60Hz 区域用の 2 種類がございます。

お届けした商品の周波数をご使用区域の周波数と同じであるかどうかをご確認ください。

ご使用区域の周波数と違う周波数の商品が届いた場合には、

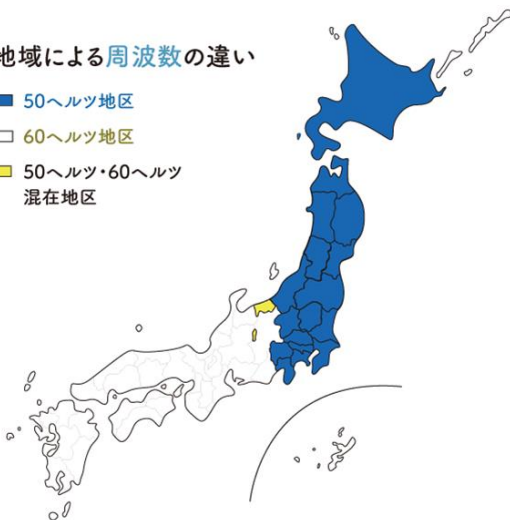
ご使用にならずにすぐに当店まで、ご連絡をお願いします。

地域による周波数の違い

■ 50ヘルツ地区

□ 60ヘルツ地区

■ 50ヘルツ・60ヘルツ
混在地区



50Hz または 60Hz と
記載されているのを確認



※ご使用区域の周波数と違う周波数の商品を使用すると
火災や、機械故障の原因になります。

燃料は必ず良質の灯油（JIS 1号灯油）を
使用してください。

⚠ 危険



KEROSENE ONLY

ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油

⚠ 警告



換気必要
1時間に1~2回

寝るとき消火

スプレー缶厳禁

⚠ 注意

変質した持ち越し灯油
使用厳禁

取扱説明書

業務用油だき可搬形ヒーター・熱風式直火形

オリオンジェットヒーターHP

HPE150A



- この機械は物の加温、乾燥を目的とした「業務用」ヒーターです。
- 家庭用として使わないでください。
- 火力が強いため、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- この取扱説明書をよく読んでヒーターを正しくお使いください。
- 取扱説明書は必ず保管しておいてください



ガソリン厳禁



巻末が保証書となっています。
大切に保管してください。

03102420010

はじめにお読みください

このたびは、オリオン製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
より安全に、また良好な状態でお使いいただくために、この「取扱説明書」をお読みになって、正しくお使いください。

安全上のご注意

ご使用前に「安全のため必ずお守りください」をよくお読みの上、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、 危険  警告  注意に区分して表示してあります。



危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定されるもの




警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う可能性、または火災の可能性が想定されるもの











注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や、物的損害の発生が想定されるもの

また、 注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- ・ 取扱説明書をお読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
- ・ お使いになっている製品を譲渡されたり、貸与されるときには、新しく所有者となられる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書を製品本体の目立つところに添付してください。

■ 図記号について

	 記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、警告・注意以外の重要な事項を示します。

も く じ





⚠安全のため必ずお守りください	3
本体警告ラベル貼付位置	8
各部のなまえ	9
使用前の準備と確認	10
使い方	12
点検・手入れのしかた	14
定期点検	18
異常のとき	19
保管のしかた	20
消耗部品	21
廃棄について	21
オプション部品	22
アフターサービス	24
仕様	25

安全のため必ずお守りください

使用上の注意 (危険)

この章に記載する事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための安全上の重要事項です。この製品を使用する前にお読みになり、必ずお守りください。





危険

	ガソリン厳禁 灯油 (JIS1 号) を必ず使用してください。ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
	可燃性ガス及び引火性液体厳禁 可燃性ガスを発生するもの (シンナー、ガソリン、LPGなど) を使っているところや置いてあるところでは、ヒータを絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
	換気必要 使用中は 1 時間に 1~2 回必ず換気してください。換気せずに使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。 密閉された空間での使用厳禁 換気が十分行われない場所で使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。新鮮な空気が常に供給できるように、空気取入口や排気口を必ず設けてください。
	改造厳禁 改造は絶対にしないでください。製品故障の原因になるばかりでなく、火災・やけど・不完全燃焼による中毒など、重大な事故の原因になります。

安全のため必ずお守りください



使用上の注意 (警告)

警告

	<p>変質灯油、不純灯油使用厳禁 変質灯油や不純灯油を使用すると異常燃焼や火災の原因になります。</p> <p>スプレー缶厳禁 スプレー缶など密閉容器を暖めたり、熱風の当たるところに放置しないでください。 熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発し危険です。</p> <p>可燃性粉塵厳禁 可燃性粉塵(木くず、紙くず、繊維くずなど)が発生するところでは使用しないでください。 ヒータに吸い込まれると、加熱され火の粉になって吹き出されるので、火災の原因になります。</p> <p>水のかかるところ、湿気の多いところでの使用禁止 本製品は屋内仕様です。雨水、雪などのかかるところ及び湿気の多いところでは使用しないでください。また、濡れた手で操作しないでください。故障や感電の原因になります。 ※ご使用に適さない場所 例：プール施設等の高温環境下</p> <p>ダクト直接接続厳禁 熱風吹出口に直接ダクトを接続しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。</p> <p>空気取入口及び熱風吹出口をふさがない 熱風吹出口や空気取入口をふさがないでください。また、周囲のシート等が空気取入口に貼り付かないように注意してください。異常燃焼や火災の原因になります。</p> <p>電源コードを破損させたり加工しない 電源コードに重いものを載せたり、加熱したり、引っばったり、はさみ込んだり又は加工しないでください。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります</p> <p>車両への据え付け、積載したままでの使用禁止 車両への据え付けや積載したままで使用しないでください。故障や火災の原因になります。</p>
	<p>回転物に注意 運転中、内部の送風ファンは高速で回転しています。点検時は必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業を行ってください。また、空気取入口の保護網が変形、破損した場合は使用をやめ、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。送風ファンに触れるとケガの原因になります。</p>
	<p>周囲の可燃物に注意 ヒータ周囲の天井、壁面等の可燃物との距離は、下図の距離を確保してください。また、熱風吹出角度を調整する際には、床面等が高温にならないように注意してください。火災の原因になります。</p> <div data-bbox="574 1691 1197 2038"><p>上 2m以上</p><p>横 1m以上</p><p>後 2m以上</p><p>前 2m以上</p><p>横 1m以上</p></div>

安全のため必ずお守りください

使用上の注意 (警告)

	<p>正常燃焼の確認</p> <p>使用するたびに正常に燃焼していることを確認してください。(14 ページの「点検・手入れのしかた」を参照) 炎の飛び出し、におい、すすの発生など異常を確認したときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店へ連絡してください。異常のまま使用を続けると、ヒータ本体の焼損や火災の原因になります。</p>
	<p>点検、手入れ時、電源プラグを抜く</p> <p>点検、手入れ時及びオプション部品の取付の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファンによるケガの原因になります。</p>

安全のため必ずお守りください

使用上の注意 (注意)

注意



振動の激しいところや水平でないところでの使用禁止

振動がなく水平な場所で使用してください。振動が激しい場所や水平でない場所で使用すると、ヒータが移動したり転倒したりして、火災の原因になります。

通路や子供のいる場所での使用に注意

階段、避難口及び部屋の出入口などでは使用しないでください。人がぶつかり、やけどなどの事故の原因になります。また、子供のいる場所では、ガードを設置したり管理者をおくなどして、特に安全管理に注意してください。

風に注意

風の強い場所では使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

磁気や高周波に注意

磁気や高周波の強い場所では使用しないでください。予期せぬ製品の誤動作等により火災等の事故の恐れがあります。

腐食性ガスに注意

腐食性ガスの発生するところでは使用しないでください。製品の故障や漏電による、感電、火災の原因になります。

点火操作の繰返し禁止

燃料切れ以外で点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないで、お買い求めの販売店にご連絡願います。点火操作を 4 回以上繰り返して点火した時には、熱風吹出口より炎や煙が出ることがあります。また、火災の原因にもなります。

電源プラグでの消火禁止

電源プラグを抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。冷却が不完全となり、火災、やけど、焼損の原因になります。

燃焼中の移動禁止

ヒータを火のついたまま移動しないでください。やけどの恐れがあります。転倒すると火災の原因になります。

灯油を入れたまま保管、廃棄しない




保管及び廃棄するときは必ず油タンクを空にしてください。油タンク内の灯油が漏れると環境汚染や火災の原因になります。また、長期間保管した灯油を使用すると不完全燃焼の原因にもなります。

点火操作後の熱風吹出口接近禁止

点火操作をした後、熱風吹出口をのぞき込まないでください。やけどの恐れがあります。




安全のため必ずお守りください

使用上の注意 (注意)

	<p>運搬時に注意</p> <p>手で持って運搬するときは、本体を振らないでください。油漏れの原因になります。また、ぶつけると変形や破損をして、故障や油漏れの原因になります。</p>
	<p>やけどに注意</p> <p>燃焼中や消火直後は、ルーバー、外筒コーンなどは 100°C以上の高温になっています。燃焼中及び消火後 30 分間は手をふれないでください。やけどの恐れがあります。</p>
	<p>電源に注意</p> <p>電源電圧は AC100± 10V の範囲内で使用してください。AC200V 電源には絶対に接続しないでください。制御基板が故障します。また、タコ足配線はしないでください。故障や感電、火災の原因になります。</p> <p>動物飼育施設での使用に注意</p> <p>動物飼育施設での使用時は、下記内容が想定されますので、特に注意して使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 敷きワラ、オガ粉等の可燃物が多く火災の恐れがありますので、周囲の可燃物には特に注意してください。・ 換気が不十分になると酸欠や一酸化炭素中毒により家畜が死亡する恐れがありますので、使用中は 1 時間に 1~2 回換気をしてください。・ 安全装置の作動などによりヒータが自動消火し家畜が凍死する場合も想定されますので、使用中は定期的に運転状態を確認してください。・ 家畜がヒータを倒したり、壊す等して、火災の原因になったり、家畜が長時間温風にあたり低温やけどや脱水症状になる恐れがありますので、家畜がヒータに近づきすぎないように、柵などの施設を設置してください。 <p>周囲温度に注意</p> <p>周囲温度は -20°C ~ 40°C の範囲で使用してください。40°C を超える温度で使用するとヒータが過熱され、火災の原因になります。</p> <p>給油時消火</p> <p>必ず消火してから給油してください。火災の原因になります。</p> <p>運転スイッチの切り忘れに注意</p> <p>サーモスタット、またはタイマを取り付けて運転すると、自動的に点火・消火を繰り返します。(サーモスタット、またはタイマはオプション) ヒータを使用しない時は、必ず運転スイッチを「切」にして電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因になります。</p> <p>サーモスタット感温部設定場所に注意</p> <p>サーモスタットを取り付けた場合、サーモスタットの温度感知部は温風が直接当たる所に置かないでください。頻繁に ON(燃焼) / OFF(消火) を繰り返し、故障の原因になります。</p> <p>自動車運搬時に注意</p> <p>自動車に積載して運搬するときは、灯油を抜き、転倒防止の処置を行ってください。転倒や、振動により油タンク内の灯油が漏れると火災の原因になります。</p> <p>運搬時に注意</p> <p>不安定な場所を手で持って運搬するときは、バランスを崩す恐れがありますので注意してください。転倒によるけがの原因になります。</p>

安全のため必ずお守りください

使用上の注意 (注意)

	<p>点検時保護手袋着用 ヒータの清掃や炎検出器の点検の際は、ケガの防止のため、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。</p> <p>標高の高いところでの使用禁止 標高 1000m以下で使用してください。1000mを超える場所で使用すると、燃焼空気量不足により異常燃焼の原因になります。</p> <p>電源コードは先端のプラグを持って抜く コードを持って抜くと、芯線の一部が断線して、発熱・発火などの原因になります。</p> <p>消火の確認 消火をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。火がついたままだと、火災の原因になります。</p>
	<p>使用時以外は電源プラグを抜く 使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。</p>
	<p>アースは必ず接地 ヒータを使用するときはアースコードを必ず接地してください。(12 ページの「点火のしかた」を参照) 感電の原因になります。</p>

本体警告ラベル貼付位置

使用上の注意 (本体警告ラベル貼付位置)

⚠ 本体警告ラベル貼付位置

次の警告ラベルは、重要警告事項の中から特に重要なものとして厳選されておりヒータ本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みください。

また、汚れ、傷などで見えにくくなった場合には、お買い求めの販売店に連絡し、新しいものに貼り替えてください。(有償扱いとなります。)



各部のなまえ

外観 / スイッチパネル / 外筒カバーを開けると

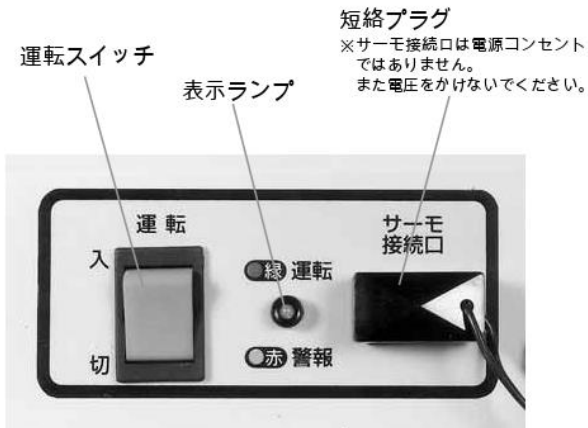
■ 外観 前面



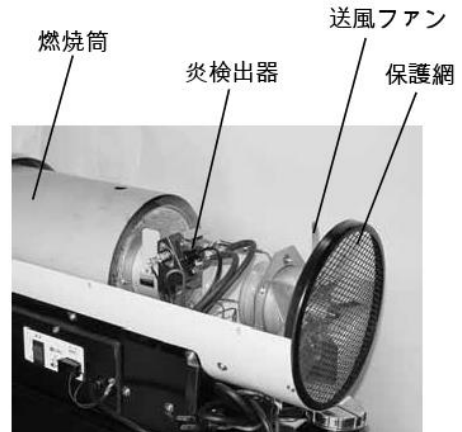
裏面



■ スイッチパネル



■ 外筒カバーを開けると



使用前の準備と確認

使用する場所 / 燃料 / 点火前の準備

使用する場所

「安全のため必ずお守りください」をよくお読みになり、使用する場所には特に注意願います。

燃料

危険

- ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。灯油 (JIS1号) を必ず使用してください。

警告

- 変質灯油、不純灯油は使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

1. 燃料は JIS1 号灯油を使用する。
2. 変質灯油や不純灯油は使用しない。

- 変質灯油とは

- ・ 古い灯油 (昨シーズンより持ち越した灯油)
- ・ 日光の当たる場所で長期間保管したもの
- ・ 温度の高い場所で長期間保管したもの

- 不純灯油とは

- ・ 灯油以外の油 (ガソリン、シンナー、機械油、重油など) が混入したもの
- ・ 水やゴミが混入したもの

- 変質灯油、不純灯油が入っているとき

- ・ 油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油と入れ替えてください。(「油タンクの掃除」16 ページ参照)



点火前の準備

1. 梱包箱からヒータを取り出す。

- ・ ヒータ各部の梱包部材やチラシをすべて取り除く。

2. 据え付ける。

- ・ 水平な場所に置く。
- ・ ヒータの近くに燃えやすいものが置いてないか確認する。

使用前の準備と確認

給油のしかた

給油のしかた



- 給油は必ず消火してから行ってください。燃焼中に給油すると火災ややけどの原因になります。
1. 給油口キャップを外す。
 2. 油量計の目盛を確認しながら給油する。
 - ・ 給油口フィルターは外さずに給油してください。タンク内にゴミ等が入りますと送油回路の詰まりの原因になります。
 - ・ いきおいよく給油すると給油口から灯油があふれることがあります。給油はゆっくりと行ってください。
 - ・ 油量計の目盛は、「F」を超えて給油しないでください。灯油があふれます。
 3. 給油が終わったら給油口キャップを確実にしめつける。

使い方

点火のしかた

点火のしかた

注意

- 電源は AC100V です。AC200V コンセントには絶対に差し込まないでください。故障や感電、火災の原因になります。
- アースコードは必ず接地して使用してください。感電の原因になります。

1. 電源プラグを AC100V コンセントに差し込む。

- ・ 表示ランプが赤色に点灯 (停電安全装置作動) した場合は、運転スイッチが「入」になっています。運転スイッチを「切」にした後、点火操作をしてください。
- ・ 表示ランプが赤色で点滅していないことを確認してください。

重要事項

- 運転スイッチを「入」にしても表示ランプが赤色で点滅したまま運転しない (電源電圧が異常に高い) 場合は、即座に電源プラグをコンセントから抜いてください。警報が出ても、ヒータには過電圧が印加されたままになっています。

- ・ 電源プラグから出ているアース線を接地してください。

2. 運転スイッチを「入」にする。

3. 約 10 秒後に点火します。

- ・ お買い求め後初めての運転時や燃料切れした給油後の運転時は、運転スイッチ「入」後燃料ポンプから「ガチャガチャ」と音がし、失火警報が出ます。この場合は、運転スイッチを「切」にし、点火操作を 2~3 回繰り返すと点火します。(油タンク内の灯油が少量で、ヒータを運搬、移動した場合にも、同様な現象となる場合があります。)

注意

- 燃料切れ以外で点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、ヒータの異常が考えられますので点火をやめ、お買い求めの販売店へ連絡してください。点火操作を 4 回以上繰り返し点火すると、熱風吹出口より炎が出て火災の原因になります。

重要事項

- 燃料切れによる消火時や、燃料切れした給油後の運転時には、熱風吹出口から炎が飛び出したり、油滴が飛び出す場合がありますので、注意してください。炎や油滴の飛び出しを防止するためには、燃料切れをおこす前に給油してください。

使い方

消火のしかた / 熱風吹出角度の調整のしかた

消火のしかた

注意

- 電源プラグを抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。冷却が不完全となり、火災、やけど、故障の原因になります。また、過熱防止装置が作動する場合があります。
- ヒータ停止直後は、ルーバーや燃焼筒はまだ高温状態です。手を触れるとやけどの恐れがありますので、停止後 30 分間は手を触れないでください。

1. 運転スイッチを「切」にする。
2. 約 3 分間冷却運転を行った後、自動停止します。

熱風吹出角度の調整のしかた

注意

- 熱風吹出角度調整時には、床面等が高温にならないように注意してください。火災や床面変色の原因になります。

1. ルーバーによる角度調整

- (1) ルーバーハンドルを操作し、任意の角度に調整する。
 - ・ 水平から上下各 20° までルーバーの向きを変えられます。

ルーバーハンドル



注意

- ルーバーハンドルのグリップ部を持って角度調整してください。他の箇所には触れないでください。高温になっているためやけどの恐れがあります。

使い方

延長コードを使用する場合 / ダクトを使用する場合

延長コードを使用する場合

延長コードを使用する場合は、次の表を目安にしてください。

延長コードの長さ	30m	60m	90m	120m
コードの公称断面積	2mm ²	3.5mm ²	5.5mm ²	8mm ²

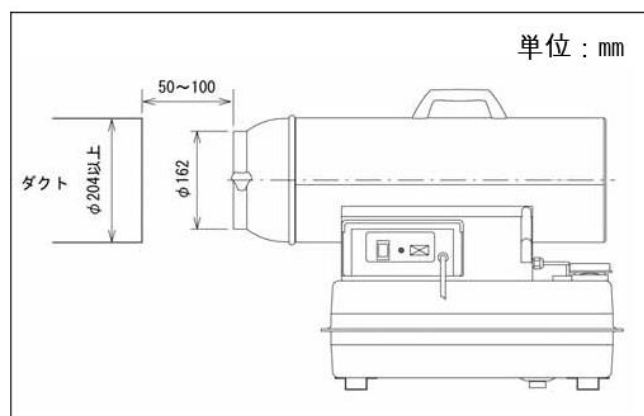
ダクトを使用する場合

警告

- ダクト径を絞ったり密着させると不完全燃焼し、一酸化炭素中毒の恐れがあり危険です。
- ダクト周囲の2m以内に可燃物を置かないでください。火災の原因になります。

1. ダクトを使用する際は、下記事項を厳守する。

- ・ ダクトは熱風吹出口より必ず 50～100mm 離して使用してください。
- ・ ダクトはヒータ径よりも太い径で、不燃性の材料のものを使用してください。



点検・手入れのしかた

警告

- 運転状態の確認、対震自動消火装置の作動確認を除き、点検・手入れは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電や、送風ファンによるケガの原因になります。

注意

- ヒータ停止直後は、ルーバーや燃焼筒はまだ高温状態です。手を触れるとやけどの恐れがありますので、停止後 30 分間は手を触れないでください。

点検・手入れのしかた

使うたびに

使うたびに



警告

- 異常が認められた時は、ヒータの使用をやめ、お買い求めの販売店に連絡してください。異常のまま使用すると、ヒータ本体の焼損や火災などの原因になります。

1. 運転前の確認

- ・ ヒータ周囲の可燃物との距離は確保されているか、また、スプレー缶などが無いか必ず確認してください。
- ・ ヒータ本体や、油タンクに油漏れや油漏れの形跡が無いか確認してください。
- ・ 外筒カバーの塗装に変色（焼け）がないか確認してください。変色があるとヒータ内部に異常がある恐れがあります。

2. 燃焼状態の確認



注意

- 燃焼状態の確認は、やけどなどの事故を防止するため、ヒータから 3m以上離れて行ってください。

燃焼中に次の異常が無いか確認してください。

- ・ 臭いがする。
- ・ 熱風吹出口から頻繁に炎が飛び出す。
- ・ 熱風吹出口から時々すすが出る。
- ・ 熱風吹出口から時々油滴が飛び出す。
- ・ 熱風吹出口から油ダレしたり、床に油が垂れたしみがある。
- ・ 炎が大きくなったり、小さくなったりする。または消火・着火を繰り返す。
- ・ 異常音や異常振動する。

重要事項

- 異常燃焼や油ダレがある場合は、電源プラグを抜かないでください。運転スイッチを切り約 3 分間の冷却運転が終わってから電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜いて消火すると、送風ファンによる冷却運転が出来ないためヒータ内部が高温になり、内部の垂れた灯油に引火し、本機の焼損や火災の恐れがあります。

点検・手入れのしかた

1ヶ月に1回以上 / 1シーズンに2~3回

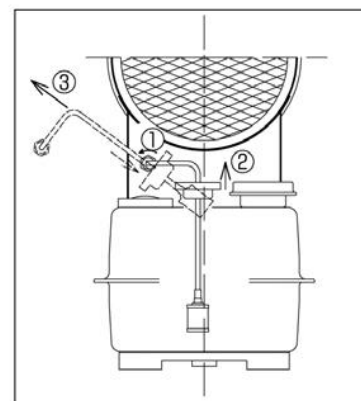
1ヶ月に1回以上

1. フィルターエレメントの点検

- ・ フィルターエレメントを確認し、汚れているときは、フィルターエレメントの掃除をしてください。
- ・ 汚れが著しいときは、新品のフィルターエレメントと交換してください。(エレメントのご注文は、お買い求めの販売店に連絡してください)

● フィルターエレメントの掃除のしかた

- (1) スパナ等でサクシヨンパイプのナットをゆるめ、サクシヨンパイプを本体から外す。
- (2) シールパッキンを油タンクから外す。
- (3) シールパッキンを下にずらしながら、サクシヨンパイプを油タンクから引き抜く。
- (4) フィルターエレメントをサクシヨンパイプから抜き、灯油で洗う。
- (5) 元通りに組み立てる。



1シーズンに2~3回

1. 油タンクの掃除 (水抜き)

- ・ ヒータ保管時は必ず油タンクの掃除を行ってください。

● 油タンクの掃除 (水抜き) のしかた

- (1) 油タンク内の灯油を、給油ポンプで抜く。
- (2) ヒータを台などの上に乗せる。
- (3) 油タンクのドレンプラグの下に油受けを置く。
- (4) ドレンプラグを外し、残った灯油をゴミや水とともに抜く。
- (5) ドレンパッキンが破損していないことを確認して、ドレンプラグと一緒に確実に締め付ける。



2. 対震自動消火装置の作動確認

- ・ 燃焼中にヒータをゆすって消火することを確認してください。

3. 燃焼状態の確認 (炎の飛び出し、すすの発生)

- ・ 粉塵等が多い使用環境によっては送風ファンに汚れが付着し、炎の飛び出し、すすの発生等の不完全燃焼になります。燃焼状態の確認 (P15を参照願います) を行い、異常の場合はお買い求めの販売店へ点検の依頼をしてください。

4. 炎検出器の掃除

- ・ 次の手順を参照し、炎検出器の掃除を行ってください。

5. 電源プラグの点検

- ・ 電源プラグにほこりが付着していないか点検します。
- ・ 電源プラグをコンセントから抜き、ほこりを取り除いて使用してください。

点検・手入れのしかた

炎検出器の掃除のしかた

炎検出器の掃除のしかた

警告

- 電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の恐れがあります。
- 送風ファンが止まっていることを確認してから行ってください。ケガの恐れがあります。

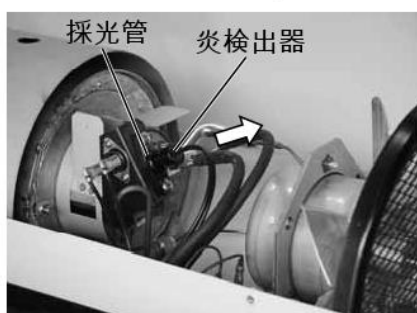
注意

- ケガの防止のため、炎検出器の掃除の際は、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。

(1) 外筒カバーを固定している7本のネジをドライバにて取り外し、外筒カバーを外す。



(2) 炎検出器を採光管より抜く。



- (3) 炎検出器の受光面のすす・ほこり等を取除く。
柔らかい布又は綿棒等で受光面についているすす、ほこり等を取る。
※炎検出器が入っている採光管先端部の穴が、ほこり等でつまっているときは、掃除してください。



- (4) 炎検出器を元通りに差し込む。この時、炎検出器の凸部と採光管側の凹部を合わせること。
(5) 外筒カバーを取り付ける。

定期点検

長時間ご使用になりますと機器の点検が必要です。点検を受けないと、予想しない事故が発生するおそれがあります。未然に事故を防止するため定期点検を依頼してください。(有償となります。)

■ 実施時期

2シーズンに1回程度シーズン初めやシーズン終了時に定期点検を依頼してください。

ただし、ほこりの多いところ、湿度の高いところなどでご使用の場合は、1シーズン毎の点検が必要となりますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

■ ご依頼先

お買い求めの販売店

■ 定期点検の内容

1. 設置状態の点検・確認
2. 安全装置及び運転状態の点検・確認
3. 環境や使用時間により劣化しやすい部品の点検・確認など
4. 製品の清掃・整備

■ 定期点検費用

定期点検の費用については、お買い求めの販売店にご相談ください。

定期点検の結果、部品交換および修理等が必要な場合は、処理内容および費用についてお客様にご相談申し上げます。

異常のとき

故障・異常早見表



警告

- 次の表に従って確認や処置を実施しても改善しない場合や、原因が不明な場合は、ヒータの使用をやめ、お買い求めの販売店に連絡してください。異常のまま使用すると、火災などの原因になります。
- 再点火操作は繰り返し4回以上行わないでください。異常のまま使用すると、火災などの原因になります。
- 確認や処置の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電や、送風ファンによるケガの原因になります。

故障・異常早見表

現象	原因	処置のしかた	
安全装置が作動した	表示ランプが赤の点灯 (停電安全装置が作動)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 停電があった。 ・ 運転スイッチ「入」で電源プラグをコンセントに差し込んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スイッチを「切」にしリセットする。
	表示ランプが赤で点滅しながら運転している。(低電圧警報装置が作動)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧が異常に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧を確認し、100± 10V 以内で使用する。
	表示ランプが赤で点滅して運転できない。(高電圧停止装置が作動)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧が異常に高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源プラグを即座に抜く。 ・ 電源電圧を 100± 10V 以内にする。(警報が出て電源プラグを差し込んだままにしておくこと、故障します。)
	表示ランプが赤の点灯 (過熱防止装置が作動)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱風吹出口に風が吹き込んでいる。 ・ 空気取入口にシート等が貼りついた。 ・ 電源電圧が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の原因を取り除き、本機が冷却するまで、運転をやめる。
	表示ランプが赤の点灯 (点火安全装置が作動)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料切れで消火した。 ・ 炎検出器の受光面が汚れている。 ・ 燃料の不良(変質灯油、水の混入等)。 ・ フィルターエレメントの詰まり。 ・ 熱風吹出口に太陽光が差し込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 油量計を確認し、給油する。 ・ 炎検出器を掃除する。(P17 参照) ・ 油タンクを掃除する。(P16 参照) ・ エレメントを掃除する。(P16 参照) ・ ヒータの向きを変える。
	表示ランプが赤の点灯 (対震自動消火装置が作動)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒータが傾いている。 ・ 強い地震や振動、衝撃が加わった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振動のない、水平な場所で使用する。
警報は出ないが燃焼状態が異常 (炎の連続的な飛び出し、臭いがする、煙が出たり油ダレする 等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料の不良(変質灯油、水の混入等)。 ・ フィルターエレメントの詰まり。 ・ 送風ファンが汚れている。 ・ 給油口キャップの通気穴の詰まり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表示ランプが点灯時の処置を参考に確認する。原因が不明の場合は、使用をやめ、販売店に連絡する。 	
運転スイッチを「入」にしても運転しない。(表示ランプも点灯しない)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過負荷保護装置(ヒューズ) が作動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売店に連絡する。 	
電源プラグをコンセントに差し込むと、運転スイッチの「入」「切」にかかわらず表示ランプが「赤」の点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源電圧が異常に高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源プラグを即座に抜く。 ・ 電源電圧を 100± 10V 以内にする。(警報が出て電源プラグを差し込んだままにしておくこと、故障します。) 	

異常のとき

安全装置一覧表

安全装置一覧表

装置のなまえ	はたらき	ランプ表示
対震自動消火装置	強い地震や衝撃を受けたときに自動消火します。	表示ランプが「赤」の点灯
点火安全装置	点火ミスや燃料切れ、異常燃焼のときに自動消火します。	表示ランプが「赤」の点灯
停電安全装置	停電後に復電しても、運転開始することを防止します。	表示ランプが「赤」の点灯
過熱防止装置	ヒータ内部が異常過熱したときに自動消火します。	表示ランプが「赤」の点灯
過負荷保護装置（ヒューズ）	過電流が流れた時に電気回路を遮断し、運転停止します。	表示ランプ消灯
高電圧停止装置	電源電圧が異常に高いときに運転停止し、警報を出します。	表示ランプが「赤」の点滅
低電圧警報装置	電源電圧が異常に低いときに警報を出します。	表示ランプが「赤」の点滅

- 安全装置作動時は、「故障・異常早見表」(19ページ参照)に従って、確認及び処置をしてください。

保管のしかた

注意

- 灯油を入れたまま保管しないでください。油タンクの腐食による穴あきで、油タンク内の灯油が漏れて環境汚染や火災の原因になります。また、長期間灯油を保管すると変質し、それを使用すると不完全燃焼の原因にもなります。
1. 電源プラグをコンセントから抜く。
 2. 油タンク内の灯油を抜く
 - ・ 「油タンクの掃除」(16ページ参照)に従って灯油をぬいでください。灯油を抜かないと、溜まった水により油タンクが錆びて穴あきの原因になります。
 3. ヒータ本体のほこりや汚れを取り除く。
 4. シート等をかけて湿気の少ない屋内で保管する。
 - ・ 雨水がかかったり、湿気の多いところには保管しないでください。

消耗部品

定期交換部品 / 点検交換部品

定期交換部品 (指定された時期に定期的に交換する部品)

	部品番号	部品名称	員数 / 台	交換時期
1	80000022560	フィルターエレメント	1	1シーズン毎
2	04044617010	ノズル組立	1	2シーズン毎

※交換時期は、一般的な使用条件における予防保全(使用中の故障を未然に防止するために計画的に行う部品交換等)としての目安です。

※交換時期は保証期間ではありません。また、製品の使用環境、運転条件等により、交換時期前に交換が必要となる場合があります。

- ノズルの交換は、専門技術を要しますのでお買い求めの販売店にご相談ください。

点検交換部品 (点検時の消耗、劣化状態に応じて交換する部品)

	部品番号	部品名称	員数 / 台	点検時期	交換判定基準
1	03038258020	給油口フィルタ	1	1シーズン毎	破損の有無
2	03044627010	給油口キャップ (オイルキャップ組立)	1	1シーズン毎	破損の有無
3	03100793010	点火棒	1	1シーズン毎	消耗・変形の有無
4	0A001421000	送風ファン (モータ)	1	1シーズン毎	異音の有無 回転の状態
5	03044615010	保護網	1	1シーズン毎	破損の有無
6	0A002391000	電磁ポンプ	1	1シーズン毎	異音の有無 油量の減少

(注意) 上記部品の交換は、専門技術を要しますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

廃棄について

製品を廃棄するときは、油タンク内の灯油を抜いた後、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に準拠し、必ず専門の産業廃棄物処理業者に委託して処理をしてください。

オプション部品

オプション部品についてのご相談は、お買い求めの販売店にご連絡ください。

1. オプション部品リスト

	部品番号	部品名称	員数 / 台	仕様
1	03039388020	サーモスタット (高温用)	1	20°C ~ 110°C
2	03107226010	サーモスタット (低温用)	1	10°C ~ 30°C
3	03107226020	サーモスタット (低温用)	1	0°C ~ 20°C
4	03040081010	サーモスタット (防湿型)	1	5°C ~ 40°C
5	03037841010	タイマ	1	
6	03044664010	車輪セット	1	

必ず純正部品を使用してください。使用の際は、部品に付属の取扱説明書をよく読んで使用してください。

2. サーモスタット・タイマの接続のしかた

サーモスタットまたはタイマを接続するときは、部品に付属の取扱説明書をお読みのうえ、次のように接続してください。運転のしかたは、部品に付属の取扱説明書を参照願います。

- (1) スイッチパネルのサーモ接続口に取り付けられている短絡プラグを外す。
- (2) サーモスタットまたはタイマのプラグを、サーモ接続口に差し込む。

重要事項

- サーモ接続口に、その他のプラグを差し込んだり、電圧を印加しないでください。故障します。

オプション部品

3. 車輪セットの取り付け方

注意

- 車輪セットを取り付けるときは、オイルタンクから油を抜いて行ってください。灯油が漏れて、火災の原因になります。

(1) 外筒カバーを固定している4本のネジを
ドライバにて外す。

※このネジは使いません。

ネジ (両側で4箇所)



(2) (1)でネジを外した穴を利用し、
把手を付属のネジ(大)で固定する。
(M5×30 4本)

把手



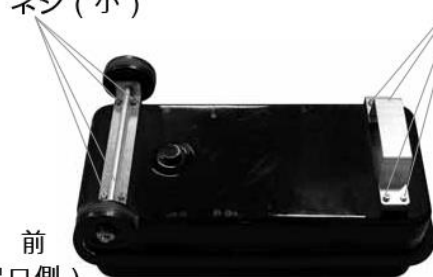
(3) タンク裏側が見える様にヒータを固定し、
前方(熱風吹出口側)に車輪組立、後方
(空気取入口側)に脚を付属のネジ(小)
で固定する。(M5×10 8本)

ネジ(小)

ネジ(小)

前
(熱風吹出口側)

後
(空気取入口側)



(4) 完成
把手を持ち上げ、運搬します。



アフターサービス

■ 保証について

- ・ 巻末が保証書となっています。大切に保管してください。
- ・ 保証期間中でも消耗部品等は有償となる場合があります。保証書をよくお読みください。
- ・ 保証期間経過後は有償修理となります。修理箇所及び修理内容や経過年数によっては新規購入をお奨めする場合がありますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

■ 点検・修理を依頼される前に

- ・ 「異常のとき」(19ページ参照)に従い確認、処置をしてください。
- ・ その上で改善しない場合、またはご不明な点がある場合は、ご自身で修理なさらずに、お買い求めの販売店にご連絡願います。

■ 補修用性能部品について

- ・ 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- ・ この製品の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後6年です。

■ アフターサービスの依頼

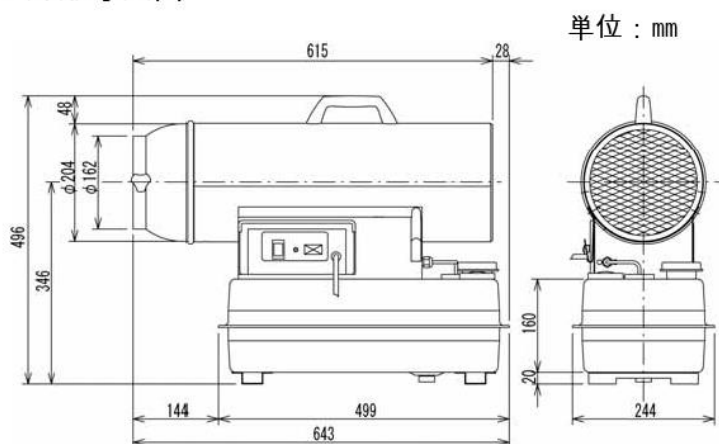
- ・ 点検、修理をお申しつけのときは、次の事項を、お買い求めの販売店にお知らせください。
①製品名 ②形式名 ③製造番号 ④現象(できるだけ詳しく) ⑤住所、電話番号
- ・ 部品のお申し込みをされるときは、次の事項をお知らせください。
①製品名 ②形式名 ③部品の名称、部品番号、個数

仕様

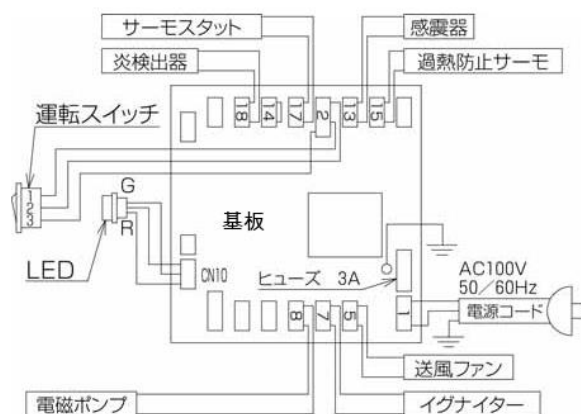
■ 仕様表

種類	熱風式直火形
形式	HFE150A
熱出力	17.0kW
燃料消費量	1.73L/h
油タンク容量	13L
燃焼持続時間	8時間
外形寸法図	高さ 496 mm× 幅 244 mm× 奥行 643 mm
製品質量 (油タンク空時)	15kg
定格電圧及び周波数	単相 100V 50/60Hz
定格消費電力 (50/60Hz)	点火時 130W 140W 燃焼時 110W 120W
運転音 (50/60Hz)	70/70dB
安全装置	対震自動消火装置 点火安全装置 停電安全装置 過熱防止装置 過負荷保護装置 高電圧停止装置 低電圧警報装置
ヒューズ	ガラス管ヒューズ (φ 5.2× 20、125V・ 3A)

■ 外形寸法図



■ 配線図





オリオン機械株式会社

http://www.orionkikai.co.jp

当社製品に関するお問合せ・資料請求は

お客様相談センター

✉ sijo@orionkikai.co.jp



☎ 0120-958-076

受付時間 平日 9時～17時

FAX 026-246-6753

北海道オリオン株式会社(札幌) 011-865-3666	中部オリオン株式会社(佐吉郡) 0587-21-1717
東北オリオン株式会社(仙台) 022-284-0691	中部オリオン株式会社(三河) 0566-62-4377
東北オリオン株式会社(盛岡) 019-641-4554	中部オリオン株式会社(三重) 059-253-7911
東北オリオン株式会社(郡山) 024-963-1051	中部オリオン株式会社(浜松) 053-464-4737
東日本オリオン株式会社(東京) 03-3523-8881	中部オリオン株式会社(沼津) 055-929-0155
東日本オリオン株式会社(横浜) 045-934-7011	中部オリオン株式会社(金沢) 076-263-1881
東日本オリオン株式会社(八王子) 042-631-5561	関西オリオン株式会社(大阪) 06-6305-1414
東日本オリオン株式会社(千葉) 043-221-7788	関西オリオン株式会社(京都) 075-646-3939
東日本オリオン株式会社(太田) 0276-46-7678	関西オリオン株式会社(岡山) 086-246-3501
東日本オリオン株式会社(さいたま) 048-783-3975	関西オリオン株式会社(山陰) 0859-30-4103
東日本オリオン株式会社(宇都宮) 028-680-6332	関西オリオン株式会社(広島) 082-264-4535
東日本オリオン株式会社(茨城) 0299-49-1008	関西オリオン株式会社(高松) 087-835-1367
東日本オリオン株式会社(新潟) 025-260-8005	西日本オリオン株式会社(福岡) 092-477-8480
東日本オリオン株式会社(長野) 026-248-2428	西日本オリオン株式会社(熊本) 0968-38-7311
東日本オリオン株式会社(上田) 0268-22-6780	西日本オリオン株式会社(鹿児島) 099-263-5275
東日本オリオン株式会社(諏訪) 0266-58-7535	

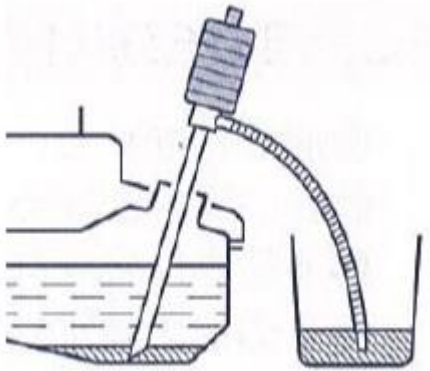


本社工場 〒382-8502 長野県須坂市大字幸高246
 更埴工場 〒387-0007 長野県千曲市大字屋代1291
 千歳工場 〒066-0077 北海道千歳市上長都1051-16


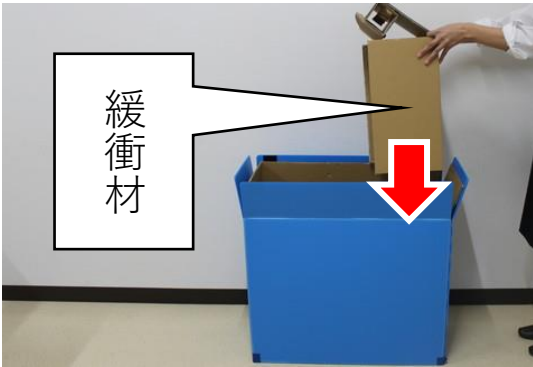
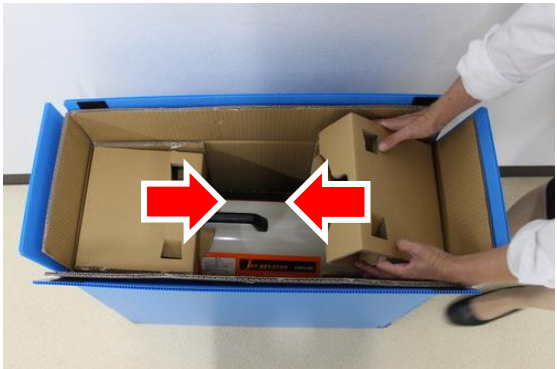


便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

お買いあげ日	製造番号
販売店名	店名
	電話 () -

返却時の梱包手順

※商品が完全に冷めたことを確認してから、梱包を行ってください。

①	 <p>A technical diagram showing a fuel pump assembly. On the left, a fuel tank is partially filled with liquid. A pump handle is attached to a vertical shaft that goes into the tank. A flexible hose is connected to the top of this shaft and curves downwards to the right, ending in a nozzle. The nozzle is shown dripping liquid into a small container below it.</p>	<ul style="list-style-type: none">• 電源プラグを抜いてください。• 返却時には付属の給油ポンプで、残った灯油を完全に抜いて空にしてください。• 梱包は、ジェットヒーターが完全に冷めてからにしてください。
②	 <p>A photograph of a blue cardboard box with its top flaps open, sitting on a light-colored floor. The box is empty and appears to be the outer packaging for the product.</p>	<ul style="list-style-type: none">• 地面に PP バンドを 2 本ひき、その上に外箱をのせてください。
③	 <p>Two photographs showing the heater being packed into the box. The top photo shows the heater unit, which is white and black, being placed into the blue box. A white callout box with a black border points to the top of the heater unit, containing the text "熱風吹出口" (Hot air outlet). The bottom photo shows the heater unit inside the box, with a white callout box containing the text "熱風噴出口の方向" (Direction of hot air spray) and a black arrow pointing to the right, indicating the orientation of the heater.</p>	<ul style="list-style-type: none">• 熱風吹出口の方向と箱の方向を写真を参考に合わせてください。

④		<ul style="list-style-type: none"> • 箱とハンディ君の方向を合わせたまま箱の中に入れてください。
⑤		<ul style="list-style-type: none"> • 緩衝材を両側に入れてください。
⑥		<ul style="list-style-type: none"> • 両側を倒し、ハンディくんをカバーしてください。
⑦		<ul style="list-style-type: none"> • 取扱説明書をいれてください。
⑧		<ul style="list-style-type: none"> • 箱を閉め、PPバンドでとめてください。 ※PPバンドのとめ方は、取扱説明書の最終ページにある「梱包時PPバンドの使用法」をご確認ください。

▼返却用の伝票を指定の位置に貼り付けてください。
返却用伝票は弊社にてご用意させていただきます。
梱包の箱に貼り付けてあります。

お届け時の伝票の下にある赤い伝票が
返却用の伝票です。



梱包時 PP バンドの使用法

①



輪をつくる。

②



つくった輪をストッパーに通す。

③



1本の足を輪の中に折りたたむ。

④



バンドを矢印の方向に引っ張る。

⑤



荷物に回したもう片方のバンドも同様に通す。

⑥



ひもを両端に引っ張り、しっかり締める。